

3月講話会『戦国大名 大友宗麟』ご報告



皆さんこんにちは。去る3月の講話会は、九州をはじめ大分県、大分市の老人クラブ会長を務め現在 NPO 法人大友氏顕彰会名誉理事長でもある牧達夫先生をお迎えして、戦国時代に九州6か国の守護大名として活躍し、また貿易を通して新しい南蛮文化の到来にも大きな貢献を果たしました“戦国大名大友宗麟”についてお話を伺うことができました。

牧達夫先生(写真)は、現在「大友宗麟をNHKの大河ドラマに」とその推進協議会会長としても情熱を注がれておりこの度その取り組みについてもお話がございました。

今回は、その講話の要旨を報告させていただきます。

尚、当日は、講話会第2部として大変僭越ではございましたが、すてきな大分を伝える会から、これまでの30回に及ぶ講話会から『私たちの観たすてきな大分』(中間報告)について発表させていただきました。この内容は、ホームページにも近々掲載の予定です。皆様にご覧頂ければ幸いです。



演題「ヨーロッパ強国進出に正面から向き合った戦国大名大友宗麟」

牧 達夫 氏

九州・大分県・大分市老人クラブ会長

1. 大友氏・大友宗麟を知ったきっかけ

私は大分市古国府(ふるごう)の生れで、今から75年程前になりますが、小学校の4年か5年の頃、学校の講堂に「大友花園屋敷址」という大きな絵が飾ってありました。先生からこの絵はこの古国府の鎌倉時代の話だよと聞かされたことが大友氏を知るきっかけとなりました。この大友花園屋敷は大友3代の頼泰(西暦1200年代)の頃建てられたと言われます。

その後、大学を出て就職した会社の最初の勤務地は臼杵でした。ここで野球部の先輩から臼杵の街は宗麟がつくったよと丹生島城だけではなかったことを教えてくれたのでした。その後勤務地は、長崎、熊本と変わり最後は福岡の博多でした。その福岡では、私が大分の出身であると知ると福岡も大友宗麟と随分関係があるよと逆に教えてくれたのでした。そのお陰で宗麟や大友氏のことに関心が強くなりやや詳しくなっていたのですが、まだ満足できるものではありませんでした。

定年となり大分に帰り、これでやっと本格的に学べると考え直ぐに郷土史に詳しい加藤貞弘先生を講師に『古国府歴史研究会』というものを立ち上げたのでした。会員が20名程でしたが、「大友氏の歴史」や「大分の歴史」更に「南大分の歴史」等を学んでいきました。そして8年程たってのことですが、それまでの研究会で学んだ内容を一冊の本にまとめました。今から20年程前になります。『南大分および周辺の歴史散歩』(写真)を出したのでした。この本は大変好評で2千冊売れました。市民の皆様は大友氏や大友宗麟の理解の助けに役だったのではと思っています。



これで一区切りができたかと思っていたのですが「研究会の活動をここで終わらせないで欲しい」との声があり、今から15年程前になりますが、平成23年(2011)にNPO 法人大友氏顕彰会を立ち上げ、現在に受け継がれています。

2. 大友宗麟(1530~1587)の功績と人物像

《外交》

大友宗麟は、当時の日本の置かれていた立場を非常によく理解していたと思います。ポルトガルから何故日本に来たのかといえば、端的に言えば植民地化でした。しかし、日本に来ますと国民の知識レベルが高いということが分かり宣教師は日本の植民地化は難しいと本国に書き送ったのです。これには宗麟も絡んでいたとみています。貿易のことだけではなく宗麟は外交も考え動いていたと私は捉えています。

《人物像》

宗麟という人は、普通の戦国大名とは少し違うところがあります。寛容さがあり、人との付き合いを大事にし、また人間らしさがありました。最後はキリスト教に入り、キリシタンとして生涯を送りました。このような生涯をもった人は珍しいと言えるでしょう。彼は世界に目を向け、スケールの大きい男でした。当時西洋に知られていたのは、織田信長でも豊臣秀吉でもありません。それは大友宗麟だけだったのです。ドイツのヴァイセン・シュタイン城には、宗麟のザビエルを豊後に迎えた場面が絵画(写真)となり飾られています。驚くことですがそれほど大友宗麟は西洋では有名なのです。



ザビエル(左)と宗麟(右)の会見
(ヴァンダイク作)

4年後の2030年に“大友宗麟生誕500年”を迎えます。この時に出来ればこのヴァンダイクの描いた絵画の本物を大分で公開できないものかと強く願っているところです。

皆様もこの記念すべき年に何か良いアイデアがありましたら是非聞かせて頂きたいと思います。

《宗麟が交流した主な人物》

武将では、足利義輝、織田信長、豊臣秀吉、豊臣秀長、長曾我部元親らがあり、宣教師ではザビエルはじめアルメイダ、トルレス、フロイス、カブラル、ヴァリニャーノらが挙げられます。織田信長に宣教師が会えたのは大友宗麟の紹介状があったからでした。特に宣教師アルメイダとは無二の親友となりました。このアルメイダの影響で宗麟はキリスト教の信仰を持つようになったと思います。

宗麟はまた文化人としての側面があり、茶人千利休との交流もありました。戦国時代、茶のたしなみができることは武将にとって極めて重要で、宗麟は茶の湯の達人でもあったのです。

《宗麟を支えた家臣》

宗麟を支えた主な家臣としては、白杵、吉弘、吉岡、田原、戸次、田北、志賀、一万田氏ら大友一族の他に日田、佐伯、清原氏の国衆、そして若林氏の水軍衆が挙げられます。

その中で立花宗茂や父の戸次道雪(義父)、高橋紹運(実父)は有名です。宗茂と紹運は豊後高田の吉弘氏の出です。宗茂は、この二人の父(道雪と紹運)に教えられて立派な武将になったのでした。島津軍に立花山城(福岡市)が攻められた時、城主であった立花宗茂は、若干の20歳でありましたが、城を守り抜き島津軍の北上を止めただけでなく、島津軍を鹿児島まで押し戻す勇猛さを示し、豊臣秀吉九州平定に大きく貢献しました。この宗茂の戦いぶりを知った秀吉は、宗茂を「西国無双」(西国一の武将)と高く評価し柳川城主に抜擢したのでした。宗茂は、その後関ヶ原の戦いの敗北のため城を追われますが、徳川家康にその実力が認められ柳川城主に帰り咲いたのです。大友氏改易後に大友家臣で一国の城主になったのは立花宗茂ただ一人でした。

《主な合戦》

①毛利(山口)との合戦(1557-1569)

これは、約 10 年続きました。詰まるところ博多の港を巡る戦いでしたが、毛利の九州攻めの隙となった山口を突く一計が功を奏し、漸く毛利を撤退させたのでした。

②島津との日向合戦(耳川の戦い 1578 年)

これに大友軍は大敗をしました。この戦いは、島津軍の戦法が一枚上手でした。また大友軍としては総大将の人選を間違えました。将の将たる器としてふさわしくない田原紹忍を人選したのです。大友軍は全く統率がとれずここで大敗をしました。この敗戦は大きかったのです。敗因は、宗麟の甘さにあったとの見方ができます。

二階崩れの変 (1550 年) に際して、その元凶であった入田親誠 (ちかざね) をその時処罰したのですが、その子まではしませんでした。彼の寛容さが出たのです。しかしその子は島津軍へ内通し、豊後攻撃の手引きをしたのでした。宗麟にはこの寛容さが裏目に出たものが多いのです。

3. 大友宗麟から立花宗茂までのNHK大河ドラマの要望活動

次にNHK大河ドラマへの要望活動についてお話いたします。私は、この要望活動をしてもう 10 年を超えました。2012 年より今年の 2 月まで渋谷のNHKへ要望に 11 回行きました。その内私は 10 回足を運びました。広瀬県知事 (当時) をはじめ当時の県議会議長、大分市長、大分市議会議長もご一緒くださいました。

今年の 2 月には、佐藤県知事はじめ白杵市長、津久見市長と私の 4 人でNHKにお願いに行ったのです。(写真) その時NHKのコンテンツ制作局長から「九州の戦国物語は面白いですね」と言ってくれました。私の方から「もうNHKにお願いに来て 11 回になります」と言いますと「牧さん、まだ 11 回ですか。15 回目で大河ドラマ決定になったところがありますよ」といわれたのです。4 年後は 2030 年に当たります。大友宗麟が誕生して丁度 500 年目に当たる年なのです。



NHK にて (報告資料より)
令和 8 年 2 月 2 日

このNHK大河ドラマ要望活動は、大友宗麟の家臣であった立花宗茂に関係が深い柳川市とも連携して取り組む話が進んでいます。来年のNHKへの陳情には、柳川市や福岡県も一緒にNHK訪問ができそうです。この誘致活動も来年が一つの勝負所と見えています。

大河ドラマの題名は『宗麟・宗茂それ行け!!』ではどうかとその実現を楽しみにしています。

4. 大友氏のその後と子孫

皆様もご存じの通り、大友宗麟の嫡子大友義統は、文禄の役の不始末により、大友氏改易となり常陸水戸に流されました。その後の関ヶ原の戦い (1600 年) で大友の旧臣と再興を期しますが石垣原の合戦で黒田軍に敗北し、その望みは絶たれます。自刃も許されず常陸の宍戸にて生涯を終えたのでした。

これで、大友氏は絶えたと思っていたのですが、最近東北や北海道に大友姓を持つ方が多いことがわかりました。

宮城県には 11,400 人、北海道 4,600 人、秋田県 3,000 人、茨城県 1,500 人、山形県 1,000 人という状況です。これが、大友義統の子孫関係者なのかそれとも豊後からの移住者なのかは分かりませんが、その数の多さに驚いているところです。この秋に大友氏顕彰会若杉理事長と一緒に東北を訪ね、大友姓の歴史に詳しい方にお会いできることを今からの楽しみにしているところです。

NHK大河ドラマ誘致実現に少し期待できそうな動きが出てきたなかで、東北や北海道にこれほど多くの大友姓の方々がいるという朗報は、非常に嬉しく気持ちが明るくなるものがあります。

今後とも一層の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

(文責 青井勝久)



参加された皆様と

《お知らせ》

◎すてきな大分を伝える会 今後の予定

7月18日(土) 14:00 ホルトホール 409会議室

「外交官 重光葵」

大分県立先哲史料館

上席主幹研究員 松原勝也先生

9月19日(土) 14:00 コンパルホール 400会議室

「西洋音楽発祥の地・大分

～大友宗麟と伊東マンショが耳にした音楽は？」

宮崎大学名誉教授 竹井成美先生

10月31日(土) 14:00 ホルトホール 302会議室

「ノーベル賞に匹敵する業績を残している田原淳博士」

大分大学名誉教授 医学博士 島田達生先生

◎一般社団法人すてきな大分を伝える会 ホームページ

これまでの講話会でお話頂いた先生の講話要旨が掲載されています。

『私たちが観たすてきな大分』(中間報告)も近々掲載の予定です。



HP QRコード